

久留米工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	国語1
科目基礎情報						
科目番号	1E01		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 4		
開設学科	電気電子工学科		対象学年	1		
開設期	通年		週時間数	前期:4 後期:4		
教科書/教材	教科書:『精選 現代の国語』、『精選 言語文化』(明治書院) 教材:『プレミアムカラー国語便覧』(数研出版) 参考図書:国語辞典 ※国語辞典は必ず持参すること。出版社等の指定なし。電子辞書可。					
担当教員	檜崎 洋一郎					
到達目標						
1. 文章を的確に読み取り、ありありと感受し、自分なりの判断を持つことができる。 2. 相手を意識して、自分の考え、思い、感じたことを適切に表現し、伝達できる。 3. 日本語を多面的に理解し、日本語への関心を深め、進んで読書することができる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	文学作品を正確に、豊かに読み味わえる。		文学作品を正確に読解できる。		文学作品を正確に読解できない。	
評価項目2	自身の理解を適切に表現し、伝達できる。		自身の理解を表現し、伝達できる。		自身の理解を表現し、伝達できない。	
評価項目3	日本語への関心を深め、自発的・意欲的な読書姿勢が身についている。		日本語に関心を持ち、自発的な読書の姿勢がみられる。		日本語に関心が持てず、自発的な読書姿勢が見られない。	
学科の到達目標項目との関係						
4						
教育方法等						
概要	日本語で書かれた文章(現代文・古文)を的確に読み、感受し、判断して、よりよく思索するための基本的な日本語力を培うとともに、相手を意識して、自分の考え、思い、感じたことを適切に表現・伝達できる能力の伸張を目指す。あわせて、言語としての日本語の性格を理解し、ことばによる表現・理解とは何か、についての認識を深め、進んで読書する態度を培う。					
授業の進め方・方法	・前期、後期ともに週2回の授業とする(「現代の国語」と「言語文化」、それぞれ週1回ずつ)。 ・授業の持ちものなどについては、初回の授業でアナウンスする。 ・指定された教科書の本文頁をあらかじめ読んでから授業に臨むこと。教科書に掲載されている作品は日本語としても優れており、声に出して読むことを勧める。とりわけ、古文は暗誦するまでに読み込んでほしい。 ・授業の発展として、問題意識をもって自主的に読書へ励み、自分の考えや思いを文章で表現するという習慣を身につけてほしい。					
注意点	【事前学習】 ・指定された教科書の本文頁をあらかじめ読んでから授業に臨むこと。その際には必ず辞書を使用し、ことばの意味についても理解を深めておくこと。 【成績評価】 ・満点を100点とし、60点以上の者を合格とする。 ・定期試験(前期中間・期末、後期中間・期末の平均点)80%、そのほか(課題・小テストなど)20%を目安として評価する。 ・出席状況や課題提出状況、受講態度などを考慮し、必要と認めた場合、再試験の実施や課題などの再提出を課す。 【その他】 ・提出を課したもの(論述や作文、コミュニケーションペーパーなど)は授業やそのほかの報告書などにおいて匿名で取り上げることがあるので、その点を留意しておくこと。					
授業の属性・履修上の区分						
☒ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業
授業計画						
		週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	オリエンテーション 授業の進め方について 現代の国語 ことばと表現(基本編) 言語文化 自己紹介・他己紹介	ことばと表現の基本を身につける。／他者との会話から情報を収集し、文章としてまとめることができる。		
		2週	現代の国語 「自分の時間で読み継ぐ」 言語文化(古文編) 「宇治拾遺物語」	本文を通して、「読むこと」についての多様で豊かな営みを実感することができる。／説話のおもしろさを味わうことができる。歴史的仮名遣いの読み方を理解し、古文を音読できる。		
		3週	現代の国語 「自分の時間で読み継ぐ」 言語文化(古文編) 「宇治拾遺物語」	本文を通して、「読むこと」についての多様で豊かな営みを実感することができる。／説話のおもしろさを味わうことができる。歴史的仮名遣いの読み方を理解し、古文を音読できる。		
		4週	現代の国語 「『ふと』と『思わず』」 言語文化(古文編) 「徒然草」	「母語」を捉え直し、言葉を翻訳するということは文化の翻訳でもあることを理解できる。／「徒然草」に表れた作者のものの見方、感じ方を捉えることができる。作者の主張を読み取り、批評できる。		
		5週	現代の国語 「『ふと』と『思わず』」 言語文化(古文編) 「徒然草」	「母語」を捉え直し、言葉を翻訳するということは文化の翻訳でもあることを理解できる。／「徒然草」に表れた作者のものの見方、感じ方を捉えることができる。作者の主張を読み取り、批評できる。		
		6週	現代の国語 「『ふと』と『思わず』」 言語文化(近現代文編) 「羅生門」	「母語」を捉え直し、言葉を翻訳するということは文化の翻訳でもあることを理解できる。／近代日本文学への入門的な短編を通して、内容や展開を的確に捉えることができる。舞台設定・構成・描写に注目して作品を読むことができる。		

後期		7週	現代の国語 広告：関心を引く表現を学ぶ 言語文化〈近現代文編〉 「羅生門」	書き手の主張をさまざまな表現から読み取ることができる。／近代日本文学への入門的な短編を通して、内容や展開を的確に捉えることができる。舞台設定・構成・描写に注目して作品を読むことができる。
		8週	中間試験	1stQの学習内容が60%以上定着している。
	2ndQ	9週	現代の国語 「わかりあえないことから」 言語文化 中間試験範囲の復習	「対話」の意味と重要性を的確に理解できる。あわせて、「対話」を実践できるようになる。／試験で間違えたところを確認し、1stQの学習内容を定着させる。
		10週	現代の国語 「わかりあえないことから」 言語文化〈近現代文編〉 「羅生門」	「対話」の意味と重要性を的確に理解できる。あわせて、「対話」を実践できるようになる。／近代日本文学への入門的な短編を通して、内容や展開を的確に捉えることができる。舞台設定・構成・描写に注目して作品を読むことができる。
		11週	現代の国語 「わかりあえないことから」 言語文化〈近現代文編〉 「羅生門」	「対話」の意味と重要性を的確に理解できる。あわせて、「対話」を実践できるようになる。／近代日本文学への入門的な短編を通して、内容や展開を的確に捉えることができる。舞台設定・構成・描写に注目して作品を読むことができる。
		12週	現代の国語 「上手い、おもしろい」 言語文化〈近現代文編〉 「羅生門」	本文のキーワードとなる「上手い」「おもしろい」の意味を正確に捉え、「書くこと」に積極的な態度を見せることができる。／近代日本文学への入門的な短編を通して、内容や展開を的確に捉えることができる。舞台設定・構成・描写に注目して作品を読むことができる。
		13週	現代の国語 「上手い、おもしろい」 言語文化〈古文編〉 「伊勢物語」	本文のキーワードとなる「上手い」「おもしろい」の意味を正確に捉え、「書くこと」に積極的な態度を見せることができる。／昔の人の恋のあり方について理解し、歌物語に親しむことができる。想像力を働かせ、人物の心情を考えることができる。
		14週	現代の国語 「上手い、おもしろい」 言語文化〈古文編〉 「伊勢物語」	本文のキーワードとなる「上手い」「おもしろい」の意味を正確に捉え、「書くこと」に積極的な態度を見せることができる。／昔の人の恋のあり方について理解し、歌物語に親しむことができる。想像力を働かせ、人物の心情を考えることができる。
		15週	前期のまとめ（14週目の後に期末試験を実施し、15週目に答案返却・解説をする） 夏休み中の課題についての説明	前期の学習内容が60%以上定着している。
		16週		
	3rdQ	1週	現代の国語 「働くことの意味」 言語文化〈近現代文編〉 ビブリオバトル	「働くこと」について広く関心をもち、自分自身の指標を抱くことができる。／的確に文章を「読み」、相手に伝わる表現で「書き」、人前で「話す」ことができる。人の話を「聞く」ことができる。
		2週	現代の国語 「働くことの意味」 言語文化〈古文編〉 「伊勢物語」	「働くこと」について広く関心をもち、自分自身の指標を抱くことができる。／昔の人の恋のあり方について理解し、歌物語に親しむことができる。想像力を働かせ、人物の心情を考えることができる。
		3週	現代の国語 「働くことの意味」 言語文化〈古文編〉 「伊勢物語」	「働くこと」について広く関心をもち、自分自身の指標を抱くことができる。／昔の人の恋のあり方について理解し、歌物語に親しむことができる。想像力を働かせ、人物の心情を考えることができる。
		4週	現代の国語 「坐の象徴論」 言語文化〈古文編〉 「伊勢物語」	普段特に意識していない道具や所作が、思想文化の表出によるものであるという筆者の主張を読み取ることができる。／昔の人の恋のあり方について理解し、歌物語に親しむことができる。想像力を働かせ、人物の心情を考えることができる。
		5週	現代の国語 「坐の象徴論」 言語文化 ことばと表現（ことばの意味を説明する）	普段特に意識していない道具や所作が、思想文化の表出によるものであるという筆者の主張を読み取ることができる。／国語辞典ができるまでの流れを知り、ことばの意味を説明する難しさを実感できる。
		6週	現代の国語 「坐の象徴論」 言語文化 ことばと表現（ことばの意味を説明する）	普段特に意識していない道具や所作が、思想文化の表出によるものであるという筆者の主張を読み取ることができる。／国語辞典ができるまでの流れを知り、ことばの意味を説明する難しさを実感できる。
		7週	現代の国語 手順書：手順を正確に伝達しよう 言語文化 ことばと表現（ことばの意味を説明する）	情報の伝え方や、読み手の立場に立って自分の書いた文章を推敲する力を身に着ける。／国語辞典ができるまでの流れを知り、ことばの意味を説明する難しさを実感できる。
		8週	中間試験	3rdQの学習内容が60%以上定着している。
	4thQ	9週	現代の国語 「〈普遍語〉とは何か？」 言語文化 中間試験範囲の復習	〈普遍語〉についての論述を身近なものとして捉え、自分自身の問題意識に重ね合わせることができる。／試験で間違えたところを確認し、3rdQの学習内容を定着させる。
		10週	現代の国語 「〈普遍語〉とは何か？」 言語文化〈古文編〉 「土佐日記」	〈普遍語〉についての論述を身近なものとして捉え、自分自身の問題意識に重ね合わせることができる。／日記文学の特徴や成立の背景を理解できる。諧謔などの表現の工夫を味わうことができる。
		11週	現代の国語 「〈普遍語〉とは何か？」 言語文化〈古文編〉 「土佐日記」	〈普遍語〉についての論述を身近なものとして捉え、自分自身の問題意識に重ね合わせることができる。／日記文学の特徴や成立の背景を理解できる。諧謔などの表現の工夫を味わうことができる。
		12週	現代の国語 「漢文脈と近代日本」 言語文化〈古文編〉 「土佐日記」	日本文化の基盤として息づく漢文の世界を再認識することができる。／日記文学の特徴や成立の背景を理解できる。諧謔などの表現の工夫を味わうことができる。

		13週	現代の国語 「漢文脈と近代日本」 言語文化〈古文編〉 伝統芸能	日本文化の基盤として息づく漢文の世界を再認識することができる。／歌舞伎から生まれたことばを学び、伝統芸能と現代のことばとのつながりを理解できる。
		14週	現代の国語 「漢文脈と近代日本」 言語文化〈古文編〉 伝統芸能	日本文化の基盤として息づく漢文の世界を再認識することができる。／伝統芸能に関する映像を鑑賞し、日本文化に親しむことができる。
		15週	後期のまとめ（14週目の後に期末試験を実施し、15週目に答案返却・解説をする）	後期の学習内容が60%以上定着している。
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文社会科学	国語	国語	論理的な文章（論説や評論）の構成や展開を的確にとらえ、要旨・要点をまとめることができる。	1	前2,前3,前4,前5,前6,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15
				論理的な文章（論説や評論）に表された考えに対して、その論拠の妥当性の判断を踏まえて自分の意見を述べるができる。	1	前3,前5,前6,前8,前10,前11,前13,前14,前15,後2,後3,後5,後6,後8,後10,後11,後13,後14,後15
				社会生活で使われる語彙（故事成語・慣用句等を含む）を増やし、思考・表現に活用できる。	1	前2,前4,前8,前9,前12,前15,後1,後4,後8,後9,後12,後15
				専門の分野に関する用語を論理的思考・表現に活用できる。	1	前2,前4,前8,前9,前12,前15,後1,後4,後8,後9,後12,後15
				文学作品（小説・随筆・詩歌・古典等）を文脈に即して鑑賞し、そこに描かれたものの見方や登場人物の心情を説明できる。	2	前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15
				言語的・文化的教養（語彙・知識等）に広く関心を持ち、そこで得られた知識や考え方を効果的な表現に活用できる。	2	前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15
				言語作品の読解を通して、人間や社会の多様な在り方についての考えを深め、自己を客観的に捉えたり自分の意見を述べるができる。	2	前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15

				常用漢字を中心に、日本語を正しく読み、表記できる。	2	前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15
				実用的な文章（手紙・メール等）を、相手や目的に応じた体裁や語句を用いて作成できる。	1	前1
				報告・論文の目的に応じて、印刷物、インターネットから適切な情報を収集し、それを整理、分析できる。	1	前7
				整理した情報を基にして、主張が効果的に伝わるように論理の構成や展開、表現方法を工夫し、報告・論文を作成できる。	1	前7,後1,後7
				作成した報告・論文の内容及び自分の思考や考察を資料（図解・動画等）にまとめ、的確に口頭発表できる。	1	前7,後1,後7
				課題や条件に応じ、根拠に基づいて議論できる。	1	前7,後7
				相手の立場や考えを尊重しつつ、議論を通して集団としての思いや考えをまとめることができる。	1	前7,後7
				新たな発想や他者の視点の理解に努め、自分の思いや考えを整理するための手法を実践できる。	1	前7,後7
評価割合						
			試験	そのほか	合計	
総合評価割合			80	20	100	
基礎的能力			70	20	90	
専門的能力			10	0	10	
分野横断的能力			0	0	0	